

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300043		
法人名	社会福祉法人いつつ星会		
事業所名	グループホーム おからぎ		
所在地	〒028-6105 岩手県二戸市堀野字大川原毛89-12		
自己評価作成日	令和3年12月2日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅と同様に生活の場として、ゆったりとした雰囲気の中で、自分らしい生活リズムに沿った過ごし方が出来るような支援を心がけている。生活の中に自分なりの日課や役割を持っていただくことで、生活にメリハリを持たせ、何気ない日常の幸せな日々を豊かで穏やかに送れるように支援を行っている。又、国際医療福祉大学病院の竹内孝仁氏先生の、自立支援介護を実践し認知症の軽減に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に商店や事業所、総合病院、法人の特別養護老人ホームなどがあり、生活環境の整った場所に立地している。同一敷地内には、同法人のデイサービスがあり、避難訓練の共同開催や看護師の助言、指導を得る等、相互に協力、支援を行い、より充実した介護サービスを利用者に提供している。運営にあたっては、法人の経営理念や経営方針のもと、「パーソン・センタード・ケア」の基準に基づき、利用者に寄り添い、利用者の要望等を聴き取り、利用者の意向に沿うよう、利用者本意の介護サービスを提供している。また、職員の知識や技能のスキルアップに取り組み、介護支援専門員の資格を4名の職員が有するなど、より良いサービスの提供に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修時や、毎年法人内で理念の研修を行っている。当事業所は、玄関とホール内に理念を掲示し、意識継続に努めている。	理事長による説明や研修会を通じて、経営理念や運営方針を職員間で共有し、利用者に寄り添い、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店に出前やケーキの注文を依頼したり、多機能型事業所に食材の配達をお願いしている。今年も、入居者と一緒の買い物や、地域行事の参加や見学を中止とした。	周辺の食堂に、寿司、ラーメン、ケーキ等の出前のほか、障害者事業所へ食材を注文している。また、自治会に加入し回覧板で情報を入手するほか、関係施設に4半期ごとに発行の機関紙を配布するなど、地域との繋がりを大切にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの待機者がいる状態で、申込者に対して自施設以外の、地域サービス等の相談にのっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議を開催出来ていない。書面を添付している。	コロナ禍のため、書面会議の方法を採用し、家族や区長、民生委員、地域包括支援センター等の運営推進委員に会議資料(運営状況や写真等)を配布し、意見や要望を伺っているが、特に意見等の申し出はない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会や包括支援センターに連絡を取り、在宅状況の確認や、GHの待機者の現状を報告している。運営推進会議には行政にも参加いただいているので、普段の連絡は電話で行っている。	市社会福祉協議会と新規入居者の情報交換を行っているほか、利用者の介護区分の変更等、市の担当者と連絡をとり、必要な助言、指導を得ている。市の行政情報は法人本部を通じて入手し、防災ラジオからは災害情報やその他情報を入手している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施や、GH業務会議で3ヶ月に一度、身体拘束の勉強会を行い意識の徹底を図っている。身体拘束に繋がるケースはないが、センサーマットや玄関の高所にセンサーを設置することで、転倒防止やエスケープに対応している。又、スピーチロックを念頭におき、入居者との良好な関係の構築や、周辺症状の軽減に努めている。基本的には、身体拘束をしない事を契約書に謳っている。	身体拘束に関する指針を定めている。感染症対策によりリモートによる研修会を実施し、職員に趣旨を周知している。玄関に入退出のチャイムを設置しているが、居室に転倒予防のためのセンサーは使用していない。身体拘束の事例はなく、スピーチロックについては、職員間で注意し合い、防止に努めている。

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施、各職員が虐待防止の意識をもって業務を遂行している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、施設見学をして頂いている。概要説明等についても十分な時間を取り、説明を行い納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の入居者との何気ない会話の中から、希望を取り入れている。家族と連絡を取った時には、情報を共有しやすいように、記録用紙に印を付けている。ケアプラン更新時には、事前に連絡を取り日頃の様子を伝え、希望を確認している。	受診の際に、来所した家族から意見等を伺うほか、法人作成の機関紙を4半期ごとに送付し、意見等を伺っている。利用者からは、日常の会話の中からお手伝いや趣味等のほか、好みの食事等の希望を聴き取り、意向に沿った対応をしている。	家族に、行事があった時の写真や普段の様子を不定期に送っているが、写真とメモ等の資料を沿えた「おたより」を定期的に提供することについて取り組むことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議を月一回行い、意見交換を行っている。急を要する場合は、随時意見を聞き他スタッフに周知様子を見ている。又、職員アンケートや人事考課で意見を聞き、人事や運営等の参考にしている。	職員との面談を通じ、意向を把握しているほか、運営に関する改善事項は、随時提案されている。居室のシーツ交換の回数や車椅子対応のベッドの配置、洗剤の効率的な使用など、具体化している。夜間対応職員を採用し月8回勤務し、介護職員の対応回数を少なくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員にアンケートや面談を行い、意向を確認している。人事考課を実施している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修を実施や、月に一度、当事業所内で認知症に関する勉強会を開催している。今年度も外部研修への参加を見合わせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症GH協会と、いわて地域密着サービス協会に加盟し、資料や機関紙を参考にしている。今年度も、研修会や定例会への参加なし。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、多方面から情報を収集しアセスメントを行い、支援に繋げている。特に言葉遣いに注意し、傾聴の姿勢を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、安心してサービス利用を開始できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時に、既往歴等から本人の状態をアセスメントし、サービスの検討を行っている。ケースにより、各関係機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を尊重した支援を心がけている。本人の出来ることを探したり、行ったりして暮らしを共有できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が通院対応で来所の際は近況を伝え、連携できるように支援を行っている。家族への報告や相談を行い、繋がりを大切にしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、面会等従来通りに行えていない。	コロナ禍により、家族以外の来所を制限している。家族等との外出や受診の際の外出も行っていない。親戚や知人からの年賀状のほか、遠方の娘さんからの電話を受けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の能力を把握しながら、出来る事は皆と一緒に出来るように支援している。入居者同士の支え合いを大切に、なるべく周囲と関わりを持てるようにしている。孤立しがちな方には、得意な事を行って頂くように職員が関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行えていない。今後の課題である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を観察しながら、本人の意向や希望を把握できるように努めている。職員同士で情報を共有し、支援に繋げるようにしている。	介護にあたっては、日常生活の中で利用者とは話することを大切にしており、利用者への思いを巡らせながら聴き取った要望や気になった事項は、申し送りノートに記載し、職員間で共有し、日々の業務に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活等について伺ったり、前担当ケアマネージャーから情報を収集している。その人の生活歴を参考に、必要に応じてケアプランを見直し、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動を観察しながら、記録をもとに職員間で共有し経過の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフの良好な関係を基本として、本人の意向や生活状況をアセスメントし、ケアプランを実施している。各担当スタッフはケアプラン評価表を記入し、毎月の業務会議で参加スタッフでモニタリングを行っている。	介護計画は6月ごとに見直しをしている。毎月、居室担当によるモニタリング評価表で内容を確認し、職員会議で話し合っている。家族の意向を確認し、居室担当と介護支援専門員との意見交換を行って介護計画を作成している。床ずれへのエアマットの使用など、看護師の助言を反映させている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個別のチャートに24時間の流れで記録している。申し送りノートで支援内容を共有している。又、ヒヤリハットや周辺症状用紙や面会簿を併せて活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向に沿った関りが出来るように、ニーズに応じた企画、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院時に必要な時は、地元の介護タクシーを使用している。今年も買い物、祭り見学、感謝祭等の行事への参加は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係を維持し、医療を受けられるように支援している。その都度、状態に応じた内容を報告し、支持をもらっている。希望がある場合は、近くの県立二戸病院に変更している。	かかりつけ医への受診は、家族の付き添いを基本とし、血圧手帳や心身の状況等の資料を必要に応じて提供している。受診後は聴き取りにより記録している。眼科、精神科等、家族の要請により、職員が同行する場合がある。新型コロナウイルスの予防接種は協力医とかかりつけ医が実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の通所介護施設の看護師に、入居者の既往歴や内服薬、主治医を伝え把握している。急変時には、指示を仰ぐことが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接する県立二戸病院と、協力関係にある。入退院時にはカンファレンスに参加している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた指針を作成しており、24時間の看護師へのオンコール体制を実施している。重度化に向けた指針や、状態変化の意向確認書を家族に説明している。事業所の勉強会で重度化やターミナルケアの研修を取り入れている。	入居時に、重度化した場合の対応について説明し、同意を得ている。重度化した場合は改めて、家族の意向を確認し、病院の入院や特別養護老人ホームの入所を検討していただいている。施設での看取り実績はないが、ターミナルケアに関する研修会を開催し、終末期のケアに対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種急変時(発熱、嘔吐、痙攣、転倒、吐血、骨折、意識障害)のマニュアルを作成している。隣接するデイサービスの看護師に随時、相談、指導を受ける体制にある。定期的な訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の昼夜を想定した避難訓練を行っている。夜間訓練では、消防署の助言を取り入れた訓練を行っている。同法人の特養に夜間の救援の依頼をしているが、地域には民家が少なく連携協力体制は築けていない。	火災対応の避難訓練を年2回実施し、1回は夜間想定訓練を実施した。消防署の指導により、集合場所は玄関としている。また、ハザードマップにより土砂災害時の避難場所を確認済である。食材は1週間程度、反射式ストーブ、発電機などの機器も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシーの内部研修を実施している。個人の姿勢を大切に、各自に合った声掛けを心がけている。入居者の尊厳を傷つけないように注意し、ケアを行っている。	研修会を開催し、パーソン・センタード・ケアの基準の趣旨を周知し、人格の尊重、生活歴などに配慮した対応をしている。家族や利用者からの聴き取りにより把握した好きな食べ物等を提供するよう努めている。個人情報は、個別にファイルして管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを、達成できるようなケアを心掛けている。話しやすい環境や雰囲気作りに努め、自己決定ができるように選択肢を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、入居者がしたいように、寄り添うように支援している。現在は洗濯たたみや掃除、新聞整理等の役割をもっていただき、個々のペースに合わせている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理髪店の訪問散髪を依頼している。数名の入居者は、自分でブラッシングを行っている。現在は、化粧品や衣類等、入居者との一緒に買い物は行っていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で、入居者の嗜好を把握し、季節を感じられるようなメニューを取り入れている。一部の食器洗いや食器拭きは、主に入居者中心に行っている。	食事は、調理師資格を持つ職員作成のメニューにより、旬の食材を購入し、利用者の下準備の協力を得て調理し提供している。郷土食(キンカモチ)や季節ごとの行事食のほか、誕生日、敬老会、年越し等、利用者の意向に沿い、ケーキ、寿司、出前弁当、ニシメなどを提供している。家族から果物の差し入れもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取状況を把握しながら、排泄状況や体重管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、食後の声掛けやケアを行っている。就寝まえの口腔ケアを入念に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	法人で自立支援介護に取り組んでいる為、基本的にはパンツとパットを使用している。トイレで排泄することを意識し、本人の排泄パターンに応じた介助、声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながら、仕草や様子を見て案内、誘導している。3名は自立しているがパットの確認は行っている。利用者は、状況に応じ布パンツ、リハビリパンツ、パット等を併用している。失敗した場合は他の利用者には知られないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量、活動性を意識した支援を行っている。ヨーグルト等の乳製品や寒天ゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	基本的に週二回、13:30~16:00頃に入浴している。月ごとに季節に応じた花や、植物を浴槽に入れて入浴を楽しんでいる。	週2回の入浴を基本としている。普通浴で、季節の花を浴槽に入れる等ゆっくりと入り、入浴を楽しんでいる。異性介助を嫌がる利用者もあり、要望には対応している。入浴時は昔話などで、利用者と職員とのコミュニケーションの場となっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇時間は、本人の生活リズムや体調に応じて、居室やホール内のソファ席で休んで頂くようにしている。夜間は、本人の就寝時間に合わせている。ホールや居室の空調を調節し、入眠しやすい環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を管理しながら、日々の状態観察と支援の注意点に留意しながらケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好み、やりたい事等を尊重し、物や場の提供を行っている。音楽やテレビを楽しんだり、食器洗い、拭き、洗濯たたみ、おしぼり巻き等の家事活動を分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の散歩や、景色を楽しむドライブには出掛けたが、入居者と一緒の買い物支援は行えなかった。	天気の良い日は施設の周辺を散歩しており、車椅子の利用者も参加している。テラスで外気浴もしている。春には県外に果物(サクランボ、桃など)の花見に出かけた。コロナ禍の収束を待って、従来実施していた新緑、紅葉ドライブのほか、買い物等にも出掛けることができるよう計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さを取り、思い出の音楽や画像を流し、ゆったりと過ごせるようにしている。季節の花や飾りつけを行い、季節感を演出するようにしている。天窓を見上げ空の様子や雲の動き、又、窓越しに見えてくる季節の風景に、会話を広げている。	エアコン、加湿器、空気清浄機で温度、空調は適正に管理されている。室内は吹き抜けの天窓と大型の引き戸で光が入り、クリーム色の壁に、折鶴や季節の作品が飾られ、明るい雰囲気となっている。利用者は、作業用テーブルやソファに座り、テレビや会話等を楽しみながらくつろいでいる。観葉植物や切花も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にあるテレビ前のソファ席と、食堂のテーブル席で気の合った入居者が、それぞれの場所で過ごしている。又、玄関側のソファ席で一人で過ごしたり、テラスに椅子を置き、そこで花や景色を眺めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた衣装ケースや食器類、写真等を持って来ていただき、落ち着いた環境になるように支援している。現在は、居室にテレビを置いている入居者はいない。	室内は、ベッド、クローゼット、洗面台、読書灯が設置され、温度や空調はエアコン、加湿器等で管理されている。筆筒、衣装ケース、夫の写真、位牌等を持ち込み、利用者の意向に沿った配置で、居心地の良い居所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは3箇所設置しており、安心出来る環境である。バリアフリーになっており、移動に支障がないようにしている。トイレを使用していない時は、ドアを半分程開け、使用していない事が分かるようにしている。		